

「バリュー・ネットワーキング」

物流改革

をはじめ

「バリュー・ネットワーキング」構想の狙い

ヤマトグループは、これまで日本社会・経済に変化をもたらす2回のイノベーションを起こしてきました。1929年、国内初の「路線事業」をスタートし、1976年には「宅急便事業」を実現します。そして、2013年、第3のイノベーションを起こすべく、「バリュー・ネットワーキング」構想を本格的にスタートさせます。

この目的は、今までになかった「付加価値の高い物流」の提供を実現し、日本経済の成長戦略に貢献する物流の担い手になることです。

当社最大の強みである、日本全国・アジア各地域に張り巡らせたきめ細かな配送網を活かしながら、陸海空における物流の結節点である羽田の利点を最大限に活用する「羽田クロノゲート」を中心に、関東-関西-中部の「ゲートウェイ」、沖縄国際物流ハブを有機的に結びつけ、これまでコストセンターと認識されてきた「物流工程」を「バリューを生み出す手段」に進化させます。そのためには、「国内外を問わず、在庫・出荷場所を選ばない」「スピードと品質が増してもコストが増えない」「BCP(事業継続計画)の観点から在庫を分散しても総在庫が増えない」「自前での過大な物流投資を必要としない」という「物流の最適化」を提供することが必要であると考えます。この「物流の最適化」の提供こそが、「バリュー・ネットワーキング」構想の狙いです。

1 東名阪における宅急便の当日配送や国際宅急便の翌日配達などの「スピード輸送」と、通関や製品の組み立て、洗浄などの「付加価値機能」を一体化する、「止めない物流」を実現。

2 「商品在庫の分散」や「繁忙期だけの出荷作業委託」など、お客様ごとのご要望にお応えできる出荷場所・出荷形態・出荷量を問わないネットワークを確立。

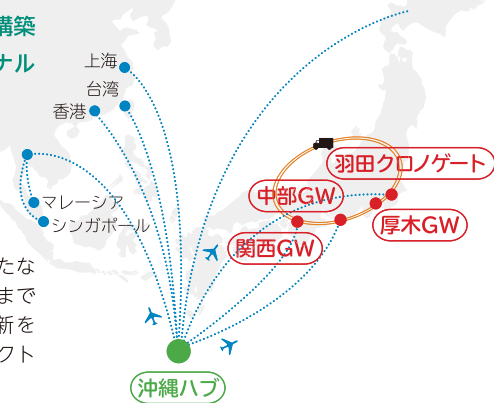
「バリュー・ネットワーキング」構想を支える

5つのエンジン

構想で めます

新たな時代を築く 4つのプロジェクトが本格稼働へ!!

- 海外(アジア)における宅急便ネットワークの構築
- アジアと日本の結節点となる総合物流ターミナル「羽田クロノゲート」の建設
- 国内主要都市間の当日配達を実現する「ゲートウェイ」構想
- アジアへの翌日配達を実現する沖縄国際物流ハブの稼働



第3のイノベーションを起こすために必要となる新たな「事業構造」を支える「事業基盤」の改革として、これまで4つのプロジェクトを推進し、ネットワークの革新を図ってきました。そして、2013年秋、4つのプロジェクトすべてを本格稼働し、新たな時代を拓きます。



3

世界初
「一貫保冷・国際小口輸送ネットワーク」を実現する、
日本からアジア向け
「国際クール宅急便」を
スタート。

4

送り手も受け手も
輸送状況が見える、
物流のデジタル情報化。

5

ヤマトグループならではの、
「受け手」視点
立った物流改革を推進。

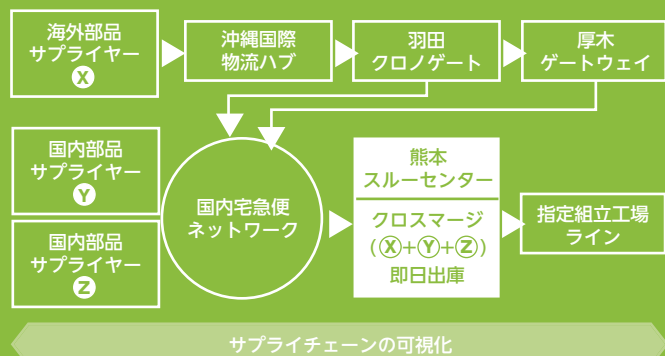


スピードアップ×高品質
×ローコストな部品調達で、
日本のものづくりを支援!



工場ラインへの 部品調達物流を 支援するヤマトグループ初の 「熊本スルーセンター」運用開始

ヤマト運輸は、2013年9月より、24時間稼働の仕分けターミナル一体型施設「熊本スルーセンター」の運用を開始しました。物流システム「FRAPS」の導入により、工場ライン別配送や全国一貫物流、部品注文情報と輸送情報の融合等を実現。「輸送情報の見える化」「輸送時間の短縮」「在庫保管スペースの削減」を図りました。ヤマト運輸は「熊本スルーセンター」を通じて、日本のものづくりを支援していきます。



サプライチェーンの可視化